

シャトー・ドウ・シャイイ

日本人事業家の熱意の結晶

横山 弘和

ブルゴーニュのシャトーホテル

ブルゴーニュ地方は、世界でも有数のワイン産地として知られており、日本でもブルゴーニュ・ワインを愛してやまない人々が大勢います。オーセール、ヴェズレー、スミュール・アン・オーソフ、オートンなど歴史の名所古跡、ワインの中心地、ポーヌの観光とワイン・カーブ訪問などのお勧めも沢山あります。そのブルゴーニュ地方のほぼ中心、パリから南東に約275キロの美しい田園風景の中にシャトー・ドウ・シャイイがあります。総部屋数45室、うち8室がスイートルームのブルゴーニュ地方初の本格的なリゾート型四つ星ホテルです。建物内部は、木の柱、石柱の彫刻、緩やかに昇る古風な階段、独特の建築様式や居住空間、サロンの古めかしい暖炉、中庭のたたずまいなど、歴史に磨かれたシャトーそのものの雰囲気です。

シャイイ・シュール・アルマンソンの歴史

シャトー・ドウ・シャイイが所在する土地、シャイイ・シュール・アルマンソンの歴史を振り返ってみましょう。文献では、シャイイの地名は1180年になって初めて登場します。シャトーは12世紀頃は小さな要塞化された家屋でした。その後、土地の領主は何回か代わり、15世紀に至って小さな要塞は本当の城郭に変わります。それは、当時の統治者ブルゴーニュ大公が勢力のある一族に城の構築を勧めたからです。新しい城には4つの大きな塔があり、城の周囲の堀には吊り上げ橋がかけられました。その後、ブルゴーニュ公国がフランス王国に統合されると要塞化した城はもう必要がなくなります。そして、人々にはもっと装飾のある住み心地の良い館を好むようになっていきました。16世紀に城は、イル・ド・フランスや



横山 弘和 / よこやま・ひろかず
1938年兵庫県生まれ。65年ホテル・オークラ(東京)入社。
95年に退社するまでソムリエとして30年間一貫してワイン
関係業務に従事する。88年11月ブルゴーニュ・シュヴァリエ・
デュ・タートヴァン(利き酒騎士)叙任。
現在佐多商会業務室在籍。

ロワールのシャトーを手本とし、ルネサンス芸術の影響を受けて改築されました。シャトーの外観は当時のままとされており、1931年には歴史的建造物の指定を受けています。

シャトーの所有者は相続されたり、売られたりで何度か代わりました。そして、1889年にシャロン一族が取得し、三代続いた後1987年に現オーナーのものになります。

ブルゴーニュへの熱き思い

弊社社長佐多はフランスの医療機器メーカーとの取引を活発化するために、パリに事務所を置き渡仏を重ねる毎にフランスの歴史や文化への関心を強めましたが、特にブルゴーニュ地方を好みました。実はシャトー・ドウ・シャイイの現オーナーは佐多なのです。シャイイの新しいオーナーに佐多がなったとき、シャトーは見る影もなく荒れ果てていました。その朽ち果てた外壁や内装をその歴史的価値を損なうことなく愛情を込めて再生し、新しい命を与え近代的なホテルに改装しました。1990年のホテルのオープニングには、ロカール仏首相、木内駐仏大使もパリから駆けつけましたが、その際のスピーチで、佐多は次の様に語っています。

1. ブルゴーニュは、文化・経済・交通等が交錯する四辻(カルフル)である。シャトーを軸に多くの素晴らしい人々との出会いの場としたい。
2. ブルゴーニュの持てる素晴らしい歴史と文化、ワインとブルゴーニュ人に息づく真、善、美の魅力を世界に知らせたい。
3. 「新しい精神」(エスプリ・ヌーヴォー)の表現・追求、つまりEC統合の精神を越えて、更に急速にダイナミックに変化し続けて



ドーム・デュ・コスモス



10周年記念パーティ



左から2人目、10周年記念パーティで挨拶する佐多
3人目、経済・財政・産業省政務次官バトリア氏

いるグローバリゼーションの今日を生きていく上での精神的松明
(トーチ)とした。

瞑想空間「ドーム・デュ・コスモス」

時空を越えた施設「ドーム・デュ・コスモス」は、あらゆる宗教の人々が一堂に会し、宗教儀式を行ったり、自由に瞑想できるエキューメニカルな空間(新しい意味でのチャペル)です。オランダ人アーティストのイレーヌ・ファン・フリーメン女史が、天井に太陽・月・星を、壁面には自然界の持つエネルギーや動き、力、情熱をイメージし、部屋の中心には「生命力の泉」(Fontaine de la Vitalité)を配し、人類、宗教を越えた何か永遠なもの、尽きせぬもののイメージを創造しています。1990年10月4日の開所式には白井永二神主(当時鎌倉八幡宮宮司兼神社本庁総長)、外山勝志神主(当時明治神宮権宮司、現宮司)他7名の神主とともに、地元のシトー修道院からサンソン修道院長、ベルギーのクレルヴォー修道院からルクレール修道院長、また、ブルゴーニュにあるチベットの仏教のお寺から2名の僧侶が参加され、三宗教合同の非常に荘厳な式が執り行われました。ここでは11組もの日本人カップルが挙式され、またフランス人で洗礼を受けられる方々も出てきています。

10周年記念パーティ

20世紀最後の年となった2000年6月16日に、シャトー・ドゥ・シャイイ、開業10周年を祝う集いが行われました。今では世界各国の賓客から高い評価を得て、安定した経営を誇るホテルになった16世紀ルネサンス様式のシャトーが、近代的な設備のホテルとして開業したのが、ちょうど10年前のこの日だったのです。

夕刻、日本からの招待客ならびに地元の人々をあわせて約350人がシャトーの中庭に集い、当地自慢の発泡性ワイン、クレマン・ド・ブルゴーニュと用意されたビュフェ料理を楽しみました。佐多は、来客にお礼の言葉を述べるとともに、10年前の当日が、父親である故保之弊社会長の喜寿の祝いも兼ねた記念すべき日であった思い出等を語り、来客に感銘を与えました。壇上では、土地のコーラスグループがブルゴーニュのワイン賛歌を次々と披露し、初夏の心地よい西日を浴びながら、祝宴は最高に盛り上がりました。

シャイイの取り持つご縁

私が現役のソムリエとして初めてブルゴーニュを訪問したのは1971年のことでした。その当時の日本におけるブルゴーニュ・ワインの知名度はまだ低く、それから30年後の変化には隔世の感があります。その後、日本におけるワイン消費の増加とともに、ブルゴーニュへは数度仕事の関係で訪れる機会を得ました。しかし、仕事を離れてのブルゴーニュ地方の良さに触れたのは20年以上もたってからでした。1994年3月に、京都大学木質科学研究所の野村隆哉先生を世話人に、民間による日仏文化交流の一環として、わが国固有の「竹文化」を同じ農耕民族であるフランスの人々に紹介し、理解していただく目的で「ブルゴーニュ・竹遊び」が企画されました。それはシャトー・ドゥ・シャイイで開催されたのです。この企画に参加した私は、早春の美しいブルゴーニュの田舎を初めて体験したのです。そして、すっかりシャイイの魅力の虜になった私は佐多社長のお誘いをありがたくお受けして、シャトー・ドゥ・シャイイの紹介のために、佐多商会にお世話になることになりました。

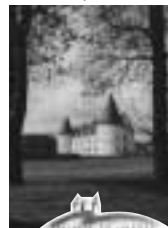
10周年記念パーティでは、日本からのゲストの皆様をブルゴーニュ・ワインの名門ドメーヌにご案内し、地下のワイン・セラーの見学や、新酒から古いヴィンテージ・ワインにいたる試飲などの貴重な体験を楽しんで戴くお手伝いをいたしました。

ブルゴーニュへ、ようこそ

中世がいまだに息づいている
ブルゴーニュへいらっしゃいませんか。
極上の銘酒を生み出すぶどう畑、
グルメレストランの数々、中世そのままの街なみ、
美しく広がる大地や、小さな村々、
豊かな生命力と「はだのぬくもり」を感じる地方、
それがブルゴーニュです。

お問い合わせ
(株)佐多商会業務室 担当: 岩沢
Tel. 03 3582 5087

Château de Chailly / シャトー・ドゥ・シャイイ



ホームページ
(http://www.chailly.com)